

社説

鐵道の公私

今の法律上に於て私設鐵道の許可は政府の權内に在る可き事なれども事の實際に於ては恰も多數決に決するの事なるが如し彼の鐵道會議の如きは本來鐵道の事に關して政府の諮詢に應じ又建議するの職權に止まるものなるに今日の實際に私設鐵道の許可は全く會議の議決如何に任せて政府は恰も其成を仰ぐもの如し又鐵道敷設法は政府をして必要なる鐵道を完成せしむるの目的にして豫定線路までも明に指定しおるに拘はらず其線路の變更増減は帝國議會の議權に存するが故に實際には議會の意向に由て折りては勝手に變更の沙汰もなきに非ざるに鐵道の許可が多數決の實を呈したるは疑もなき事實にして既に多數決とあれば其間に運動して多數を動かしたるものは自から勝を制するの利益明白なれば種々の運動流行して一種の勢力を逞うし私設の利益の爲めに本來の方針を妨げられて鐵道敷設の目的を達するに能はざるの事情なきに非ず其一二の例を記せば先頃關西鐵道が線路を名古屋に延長して東海道の官線に接続せしめんとしたりし折、政府に於ては本線の利害上より其接続を欲せざりしかども關西にては參宮鐵道など通じて大に運動を試み遂に政府を閉口せしめて目的を達したりと云ふ又中央線の新奈川王子間線路の始末の如きは如何と云ふに現に着手中なる中央線の工事に就ては諸君植物品等輸送の爲にも官線の新奈川王子に聯絡は實際の必要にして事の急なるものなるに然るに議會に於ては前期に提出の折にも之を否決し今回も亦同様なりと云ふ其理由を聞けば中央線は王子より直に東京に達せしむるより便利なれば新奈川よりするの必要なしと云ふに在るよしなれども實際の内情は新奈川王子間は非常有利の線路にて私設の計畫少からざるが故に其輩の運動に動かされて兩度までも否決したるものなりと云ふ中央線は軍事上商賣上に必要として現に着手せしめながら私利の爲めに其工事の差支をも顧みずして神王間の線路を否決するとは何事ぞや尤も其後鐵道會議にては右の線路は官設の見込なりとて私設の請願をば悉く却下したるよしなれども兎に角に多數決以來往々情實の行はるは右の事例にても明白なる可し

私設鐵道の爲めにするものなれば自から其間に區別なきを得ずと云ふんか私設は私利の爲めにして官設は公利の爲めにして云ふ實際に相違なしと雖も抑も私設會社は資本も其多からずして其株主も何百何千人に過ぎず即ち其私利なるものは眞實何百何千人の私利なるに反し官設鐵道は國庫の金を以て經營する其金は取りも直さず全國民の負擔する所にして其損得は四千萬人の利害に係るものなれば吾々四千萬人の株主たるものは僅々何百何千人に過ぎざる少數者の私利の爲めに自衛勝手に振舞はれて譯けもなく不利を蒙るの理由は有る可らず況んや四千萬人の公益とは其利益を銘々の懐に收めんとするに非ず私設の力、私利の考にては到底金で及ぶ可らざる必要の線路をますく擴張發達してますく其利益を公ならしめんと欲する大目的を有するものとすれば其營業たる公明正大難れ憚る所は有る可らず私利の爲めに屈せらるるが如きは斷じて許さざる所なり左れば其株主の代表者たる政府に於ては確と意見を定めて公利の目的を明にし鐵道會議に諮詢し又は帝國議會の協賛を求むるは固より差支なきも政府は自から政府の所信を執り果して公益の爲めと認めたらば斷然私利の計畫を排斥して大目的を達せんものと四千萬の株主を代表する政府たるもの、本分なる可しとして我輩の敢て希望する所なり

紅頭嶼外二嶋の探検

民政局長等は夫より嶋民に就て聞き取り又親しく實檢を遂げしが素より短時日の事とて精確の調査には非ざれども其概要を掲ぐれば左の如し 地勢 同嶋は周圍僅に約四里に過ぎざる一小嶋にして約二百四五十米突の二山突起し北に在るを阿肩山、南に在るを筆架尖山と稱す全嶋の下層は珊瑚礁にして上層は火山岩より成り東北の一角は斷崖絶壁なれども西雨東の三方は稍や斜面を成せり此の全山を稱して火燒山と云へるが爲め之を其嶋名にも帶びしむるに至る 沿革 同嶋には今を距る百二三十年前までは一種の番人居住し居りしに清國福州の人にして陳因先と稱する者十餘名の部下と共に來航したる上番人と戰ふて之を占領し番人は孰も紅頭嶼に逃る夫より陳等は十餘年間居住せしも何時か本國に歸去りて無人嶋と爲りしを其後小琉球嶋より李許陳鄭蘇の五姓が各々眷屬を率ゐて來住せり是れ現住民の祖先にして今日まで凡そ八九十年の年所を經たりとなり 人口 嶋民の言區々にして其概數をも知るに由なく現に人口を六七百と云ふもあれば千人と云ふもあり又其答辨に據りて各村の戸口を合算すれば戸數百六、人口二百七十九人と爲れども是れとても容易に信じ難し 産物 同嶋の物産にして輸出せるは落花生、豚、魚類にして落花生の産物は年々百七十担(一担は百斤)なれども豚六七十頭に過ぎず魚類は幾干の産類なるや之を取調ふるに由なし是等の輸出せしは直に臺灣本嶋の卑南にして金、米、紙、木綿、油等の類と交換せり 産業 嶋民は農業を主とし傍ら漁業にも従事し其暇には卑南に行商するなり農作物は落花生を重なるものとし副食物として大豆、薩頭豆、葱、蒜の類をも作るものあり煙草、粟等も三四年前までは耕作したるものありしも非常の過害を受けしを以て最早之を作るもの無く煙草のみは僅に自用の分を作り居れり 制裁 無政府の下に在りし嶋民の事なれば別に犯罪の制裁も無ければ左したる惡事を働くもの無く時ありて喧嘩口論し又は人を毆打する者あれば例の世話人が其曲直を判定し曲者より物品を送りて謝罪を奏する位に過ぎず

大阪の慶應義塾同窓會

在大阪の慶應義塾出身者は毎年春秋兩期に同窓會を開き來りたるが此程東京より中上川彦次郎、朝吹英二、高橋義雄、波多野承五郎、森下岩崎の諸氏は夫々所用を帯び來阪したるを以て諸氏の臨席を請ひ十四日午後五時より堺御橋に於て春季同窓會を催せり當日は在阪者の外、神戸京都市邊より態々來會したる人も少なからざりしが其姓名を擧ぐれば左の如し 中上川彦次郎 朝吹英二 高橋義雄 波多野承五郎 森下岩崎 石井安之助 小野左太郎 上野勲助 藤谷辰太郎 中嶋又吉 小野時夫 野川米太郎 金原四郎 藤生健一 飯野景義 飯沼計之助 高木利太郎 村上定 藤山三治 飯田正雄 田嶋久太郎 西川市藏 佐木勇太郎 飯田三郎 伊藤隆一郎 中井時二郎 藤村重太郎 飯田三郎 甲谷長三郎 池田中太郎 山下益太郎 藤田平太郎 平野平次 泉谷重太郎 藤井卯之助 成田五十郎 泉原金三郎 大岡時義 石澤命世 小島英徳 榮林宗太郎 木下政二郎 酒井三郎 小嶋徳太郎 山田芳治 關谷少園 藤澤宗三郎 宮永真吉 窪田重太郎 宮村政太郎 佐藤政太郎 二宮百松 高力久也 鈴木檢知 光吉元太郎 志方八十吉 小原正一郎 宮崎萬丈 草間時福 石垣芳太郎 吉田新一郎 宮崎竹二郎 加賀山富藏 井筒百合藏 岩井重太郎 宮崎安兵衛 前小庄友 稲田佐之助 水谷六郎 吉田房太郎 木下立安 川上英吉

大阪の慶應義塾出身者は毎年春秋兩期に同窓會を開き來りたるが此程東京より中上川彦次郎、朝吹英二、高橋義雄、波多野承五郎、森下岩崎の諸氏は夫々所用を帯び來阪したるを以て諸氏の臨席を請ひ十四日午後五時より堺御橋に於て春季同窓會を催せり當日は在阪者の外、神戸京都市邊より態々來會したる人も少なからざりしが其姓名を擧ぐれば左の如し 中上川彦次郎 朝吹英二 高橋義雄 波多野承五郎 森下岩崎 石井安之助 小野左太郎 上野勲助 藤谷辰太郎 中嶋又吉 小野時夫 野川米太郎 金原四郎 藤生健一 飯野景義 飯沼計之助 高木利太郎 村上定 藤山三治 飯田正雄 田嶋久太郎 西川市藏 佐木勇太郎 飯田三郎 伊藤隆一郎 中井時二郎 藤村重太郎 飯田三郎 甲谷長三郎 池田中太郎 山下益太郎 藤田平太郎 平野平次 泉谷重太郎 藤井卯之助 成田五十郎 泉原金三郎 大岡時義 石澤命世 小島英徳 榮林宗太郎 木下政二郎 酒井三郎 小嶋徳太郎 山田芳治 關谷少園 藤澤宗三郎 宮永真吉 窪田重太郎 宮村政太郎 佐藤政太郎 二宮百松 高力久也 鈴木檢知 光吉元太郎 志方八十吉 小原正一郎 宮崎萬丈 草間時福 石垣芳太郎 吉田新一郎 宮崎竹二郎 加賀山富藏 井筒百合藏 岩井重太郎 宮崎安兵衛 前小庄友 稲田佐之助 水谷六郎 吉田房太郎 木下立安 川上英吉

出は大阪動... 殆んせ二億... 足額は清國... 今將來受取る... 過ぎず此中... 處果して幾何... されば別に... の新造兵營... 等は永久に... の權衡上新... 加加之軍艦... 時又臨時遂... あるべしされ... 金の倍額を... 注意すべき... したる事即... 決定の上は...